

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102504		
法人名	有限会社サナス		
事業所名	有限会社サナス グループホーム 出島		
所在地	〒850-0842 長崎市新地町4-15 大久保ビル5階		
自己評価作成日	平成22年2月12日	評価結果市町村受理日	平成22年3月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年3月3日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様第一と考え、利用者様はもちろんご家族の方にも安心して頂けるよう信頼関係を築きながら、安らぎのある暮らしが営まれるように支援させて頂いています。家族会は勿論の事敬老会やクリスマス会等の行事では、ご家族もスタッフとなりお母様方の為に設営や料理作りに参加して頂き共に楽しいひと時を過ごさせて頂いています。利用者様をご家族と共に支える良い機会となりより良い関係が結べているのではないかと思います。地理的にも、交通の便が良く中心地(市街地)に在る為ご家族の面会も多く利用者の方にとっては本当に家庭的な雰囲気の中過ごさせて頂いていると思います。又、職員の育成・指導に力を入れており、質の高いサービス及び支援に繋げて行けるものと考えております。日々業務に追われがちですが、利用者様からの労いのお言葉や笑顔に元氣やパワーを頂いてお仕事をさせ

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長崎市の商業地域の中心にホームが位置するため、交通の利便性がとても良く、家族の面会にも繋がっている。行事の際には、開催前から家族の方が一緒に考え、準備に参加される等、管理者、職員全員が家族の有難さに感謝すると共に、利用者が喜ぶ行事にする為の職員の努力が感じられる。職員が日々利用者支援する一方、家族の協力により職員も助けて頂いているお陰で、より良い相互関係を構築している。また、利用者の楽しみとなる事を察知して積極的にアイデアを出し、日々利用者の支援に努めており、同じビルの中に現在の利用者全員のかかりつけ医となっている協力医療機関があり、ターミナルケアも可能となっている。管理者、職員がいそいそと働いている家庭的で暖かなホームである。

## サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立支援を前提とし、安心・安らぎ・尊厳のある生活を送って頂けるよう理念を掲げ、利用者の生活や表情から伺い取れるような支援に取り組んでいる。	朝の申し送り時に理念を声に出して読み、日々確認しながらケアに臨んでいる。職員は、利用者を大切に思う気持ちから“お母様”として捉え、利用者が主役となるように支援している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会や自治会、又は民生委員の方との情報交換や交流を図る取り組みをしている。しかし、認知症という事で会話なども成り立たない為、多数の中に交わっての交流には限界がある事を地域の方から指摘された事がある。	学生のボランティアや職場体験などを積極的に受け入れている。地域のイベントにも見学に出かける等、地域との交流に努めており、同じビルに勤務されている方のお子様をホームにお招きする等の交流もある。	今後はボランティアや職場体験の受け入れに留まらず、近隣の保育園や学校の行事にも参加して、ホームを理解していただく機会を増やすことを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	必要とされる事が起きた場合は積極的に協力しているが、今までこれといった大きな取り組みはない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	老人会や自治会又は民生委員の方との情報交換を図る場となっており、意見や要望等外部の方から聞く事によって、より良いサービスの提供につながっている。	運営推進会議は二ヶ月に一度開催し、ホームの活動内容、利用者の現況、ヒヤリハット、事故報告、家族会後の質疑応答等、盛り沢山の報告がある。和やかな雰囲気の中で地域の方の交流の場としての役割も果たしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密に連絡は取りあっていないが、申請手続き等で市役所を訪れる際利用者の方にも同行して頂いている。	市からの介護相談員の受け入れも積極的に行っている。運営推進会議を通して、疑問点を相談したり、事業所の現状を把握して頂いている。今後も、情報の共有に努めることに意欲的である。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等の参加を促し認識を高める指導を行い、身体拘束への理解が出来ている。しかし、身体の安全を優先し事故の恐れが予測される場合に限り、主治医や職員間での審議を行い必要である場合は玄関の施錠を行う事がある。	商業地のビルの五階にあるので、安全面では慎重にならざるを得ないが、玄関にチャイムを取り付ける工夫を行い、日中は施錠をしていない。外出の様子があれば、職員と一緒に同行するなどの対応をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり施設内の勉強会や会議等で議題として取り上げ、事業所内での虐待が行われないように職員間で注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者はいないが、必要がある利用者を支援してきた実績があり、又、研修等に参加して学んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学・申し込み時や契約の前に面接(調査)を行い、十分な時間をとり納得して頂ける説明が出来るようにしている。解約時にも同様である。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者に対しては利用者が訴える機会はないに等しい。家族等に関しては、家族会の時に時間を設け意見を頂けるように努めている。又、皆様の前で言いにくい場合は面会の機会を利用して意見を伺っている。	家族参加の行事の後に家族の懇談会を設け、意見や要望が出やすいように家族だけの寛く時間作りの提供をしている。その後に職員が質疑応答に答えたり、率直な意見を伺っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く・求める機会(会議・個別)を持ち、反映されるように心掛けている。	管理者も職員と共に利用者のケアを行っているので、双方で意見を出し合いながらサービスの向上に取り組んでいる。日常の中での気づきを共有しており、空いた時間に情報交換をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や実績の把握に努め評価を出し、その評価に対して給料に反映させている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ビル内に通所介護施設があり、合同研修会・勉強会等を開催し参加を促している。又、管理者や経験及び技術の高い職員には現場での実践を通しての指導等で育成に当たらせている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、同業者との交流を図っている。又、同協議会の研修会には管理者・職員共に積極的に参加促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人から訴え等あった場合傾聴し不安や不満を取り除く努力を行っている。又、代弁者としてご家族からも意見や要望等お聞きして、望まれる暮らしにより近い支援がなされるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見・要望をよく聞く機会を多く持ち、時間をかけながら安心して納得して頂いての入居に至るようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至るまでの経緯や状況をしっかり把握し、ご本人やご家族の意見・要望等を聞き、必要な支援を提供している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も含め、皆家族という思いで生活を共にしている。各利用者の特徴や出来る事を把握し、より良い生活が送れるよう支援している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と同じ思いで利用者に接するよう努めており、共にご本人を支えていけるよう信頼関係を築いていくようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際や目的を持ってその場所にお連れしたり、関係が絶たれないように努めている。	希望があれば家族の協力を得て行きつけの美容室にお連れする等、継続した関係が保たれるように支援している。利用者がこれまでに足を運んだ事があるような神社や、茶屋に同行することもある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別観察をしっかりと行って、利用者同士の関係(相関)を把握して、適切に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用頂いた利用者との関係は継続していきたいと思っており、必要に応じて相談・支援を行うよう努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意見を伺い何を望まれているのか引き出し、ケアプランに反映させ可能な限り利用者本位であるように意識して取り組んでいる。	日頃の会話の中から利用者の思いを把握したり、利用者や家族に希望や意向を聴いている。利用者が苦手なこと、希望されていないことを察知して、やさしく声掛けをしたり、誘導をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の調査書類等を参考に職員全員が情報を共有し、又ご家族から情報を頂いたりして支援に活かしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体面・精神面において、その日その日の状況を把握し、職員間で共有している。又、その日の状態・能力に合わせた対応を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に合わせその時点でミニカンファレンスを行い経過を見ながら評価を出している。ご家族や関係者等の意見が必要な場合は、その都度求めている。	家族の理解を頂きながら、本人本意の介護計画となるように管理者、職員全員で検討している。利用者ごとに職員を担当制にすることで、日々現状に即しているかの意識を持ちながらの支援が行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング表を作成し、評価や見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の訪問介護員による通所介助の支援を受けたり、利用者の帰宅(法事等)の付き添い支援をする等の対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の方には防災訓練等での情報提供や指導をお願いする事はある。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携医院の協力や、必要があれば紹介状にて専門医の受診等利用者・ご家族の希望も踏まえて行っている。	利用者と家族の安心という希望により、同じビル内の協力医療機関へのかかりつけ医の受診となっている。往診は週に一度行われ、かかりつけ医に会うのを楽しみにされている利用者もいる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	建物の1階が医療連携医院になっていることから、連携がうまくなされており、支援して頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や医療地域連携室との情報交換等を行ったりしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応の指針・ターミナルケアにおける同意書等に同意を求め、ケアや対応についての方針が確定されるように終末期を迎えられたと判断された場合、ご家族や医療機関を交えより具体的なプランを作成し、全職員でご家族を含めた支援を提供する事に行っている。	段階に応じて、本人、家族、医師との話し合いを重ね、終末期を馴染みの場所で迎えることができるように、事業所として管理者と職員が高い志を持って支援に努めている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練等を行っていない。しかし、起こりうる状況や今後予測される場合には事前に指導がなされている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	建物の両隣がガソリンスタンドであることから、口頭で災害時の協力をお願いしている。	災害時の誘導策の検討は行われているが、実際の誘導を含めた訓練は実施されていない。備蓄は米、乾物類、缶詰を一週間分と懐中電灯、ラジオ等を確保している。	運営推進会議や自治会を通して、消防署立会いの訓練に地域の方の参加協力をお願いし、また、緊急時の持ち出し品ファイルを作成することに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時には方言を交えたり親しみを込めて砕けた会話をしたりする事もあるが、その方その方に応じた言葉掛けをきがけている。	利用者の気持ちを大切に、誘導する際にはさりげなく声掛けをして対応している。利用者により寄り添うように臨機応変に言葉掛けを工夫して、真心をこめて接している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定がなされるように、利用者1人1人の能力に合わせた働きかけをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活リズムに合わせた支援をしている。しかし外出を希望された場合で、職員体制が整っていない時は、希望に沿った支援が出来ない場合がある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を受け入れた支援をしている。又、服装に関してはあまりちぐはぐな格好にならないようにコーディネートしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を把握し食卓に並べるようにしている。又買い出しや下準備等、利用者も同行したり手伝ってもらったりしている。昼食時には職員も一緒に食卓を囲んで和やかな雰囲気ですぐで食事を摂って頂いている。	利用者と一緒に近くの商業施設に買い出しに行き、その日のメニューを決めることもある。好みの物を献立に取り入れたり、料理の下ごしらえから後片付けまで、利用者が気持ちよくお手伝いされていた。職員の“ゆっくり大丈夫”の声掛けが自然にあり、一人ひとりのペースに合わせた食事の時間が提供されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定による増減チェックを行い、個々の状態に合わせバランスよく摂って頂くよう支援している。又、食事形態もその方の身体状況に合わせ提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実践し、口腔衛生グッズを個別に用意して個別に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックにて管理し、リズム・パターンを把握し、随時トイレ誘導を行いながら失禁を防ぎ、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。	トイレでの排泄を大切に、おむつに頼らない支援に努めている。尿意の有無に係わらず、さりげなく声を掛け誘導し、おむつや尿とりパットの使用は利用者に合わせて支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを活用し、食材や献立の工夫をしたり、軽運動を提供したりしている。又、個々に応じて下剤を服用し便秘解消している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回、曜日の指定をさせて頂いているが、時間帯は声掛けによりご本人の希望を優先した支援をしている。	利用者の習慣や好みを把握して、希望があれば予定以外でも、柔軟に対応している。利用者のその日の気分を優先して無理強いをしないよう努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝が早い方・遅い方、夜に行動が活発になられる方等おられる為、飲み物を提供したり添い寝をしたり、職員が常駐するリビングソファで休んでもらったりと、個々に合わせた支援をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬に添付される説明書に目を通し、副作用について理解・認識させている。又、体調に変化を感じたら再度確認し、医療機関に報告、指示を仰ぎ対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意とする所が発揮されるように、能力に合わせた役割や楽しみを持つ事で張り合いに繋がるようにしている。唱歌・書道・お買い物等それぞれに楽しめている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やお買い物、地域での行事等随時提供している。又、個別でも機会を作り近辺であれば職員が対応し、遠方であればご家族の協力を得て出掛けている。年間行事でドライブや行楽行事も提供しているが、予定に取り組んでいない時でも、ドライブ等行っている。	近くの公園の散歩にお誘いしたり、商店街に行くなどの外出支援が行われている。個別の希望に合わせてドライブに行くことも、今後も外出の機会を増やすように検討している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金としてお持ちになりたい方や、必要時に現金使用を望まれる時は適宜に対応し、支援している。支払い等付き添いながらご本人にして頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は職員がダイヤルして差し上げる事や、暑中見舞い・年賀状等ペンを走らせる事が可能な方には声掛けし支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節の花々を生けたり飾り付けをしたりして季節感が伺えるようにしている。又、食堂・リビングは、1日の大半を過ごす空間である為、快適に心地よく過ごして頂けるよう環境整備に努めている。	リビングには声掛けに反応する、抱き心地の良いぬいぐるみが置かれていた。また、ゆったりとしたソファに、季節感のある花が飾られていたりと落ち着きのある空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特別に場所を提供していないが、共用空間でそれぞれご自由に過ごされている。数名の方たちで談笑されたり唱歌を唄われたりと、交流の場となっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家具や身の回りの物をご用意頂く際、馴染みのある物や今まで使用されていた物を持参して頂く事を勧めており、配置もご本人の好まれるよう落ち着かれるよう配置して頂いている。	利用者が安らぎを得ることが出来るように、十分な広さが確保され、家族の協力も頂きながら、使い慣れたものを居室に置かれている。入居者の人柄が醸し出されている居室である。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	構造に合わせた中で個別の能力に応じた生活が安全に営まれるように問題が生じた時点で改善を行っている。		